

“リモコン式草刈機”の試験施工を行いました



参加者による操作体験



デモ走行状況

沼川をはじめ県が管理する河川におきまして、地域の皆様が堤防除草や清掃など熱心に河川愛護活動を行っていただき、改めて感謝申し上げます。

除草作業については、これまで“肩掛式草刈機”が主流であり、危険な作業や多大な労力を要し、除草作業の単価は年々増大するなど、大きな課題でありました。

このため、令和4年9月13日に新技術の“リモコン式草刈機”の導入に向け、試験施工を行ったところです。当草刈機は作業の安全性向上や作業員の省力化などにより、効率的な除草が可能となります。

現在、沼津土木では購入手続き中であり、納入後は“リモコン式草刈機”を有効活用し、適正な河川管理に努めてまいります。

作業効率
5倍以上

施工方法	日当たり施工量
肩掛式	680 (m ² /日)
リモコン式	3,500 (m ² /日)

沼川新放水路整備課職員の紹介



昨年7月豪雨や本年9月の台風15号など大規模な豪雨災害は年々増加傾向であり、沼川新放水路の整備は急務であります。

沼川新放水路整備課は、本年10月に本採用を迎えたフレッシュマンの小塩技師を加え計7名で、地域の皆様と一っしょに、より良いまちづくりを目指し全力で事業を推進してまいります。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

左から 小塩技師、里吉技師、三井主任、保竹班長、石野主任、露木課長、望月主査



令和4年10月11日 撮影

なますくん通信とは

この広報紙「なますくん通信」では、沼川新放水路整備事業を中心に、沼川流域における治水対策事業について分かりやすく説明していくとともに、これからの川づくりの最新情報をお知らせしていきます。

目次

- ✓ 下流工区 海岸部 進捗状況
- ✓ 下流工区 函体工 進捗状況
- ✓ 下流工区 JR交差部 進捗状況
- ✓ 上流工区 盛土工 進捗状況
- ✓ “リモコン式草刈機”の試験施工を行いました
- ✓ 沼川新放水路整備課職員を紹介します



沼津土木事務所 沼川新放水路整備課
Tel: 055-920-2129



下流工区 海岸部 進捗状況

新放水路最下流の放流口部では、延長137mの函体工の建設工事を進めています。令和4年9月28日に最後のコンクリート打設が完了し、構造物の形がわかる状況となりました。10月に入り、函体と地山の間を埋め戻す作業を進めています。



海側から上流を望む（令和4年9月末撮影）

来年2月から海岸防潮堤を元に戻す工事に着手する予定であり、海岸部の工事は、来年秋頃に完了する見込みになっています。

放流口部の完成が
間近に迫っておるな♪



下流工区 函体部 進捗状況



上流側から海側を望む（令和4年9月末撮影）

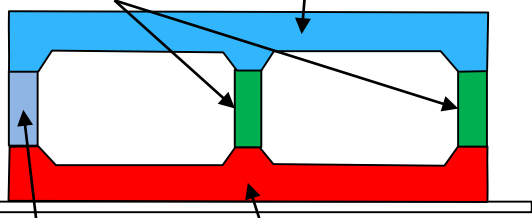
旧凸版印刷跡地上流部では、昨年度に引き続き、函体を20m延伸する工事を進めています。また、新たに県道富士清水線の直下の函体工事に着手します。

令和4年9月21日、底版部のコンクリート打設を行いました。コンクリート量は811m³、ミキサー車は合計194台にのぼり、早朝6時30分から夜間21時30分まで連続して打設することで、打ち継ぎ目の少ない高品質の函体の整備を進めています。

昼夜にわたる工事になりましたが、地域の皆様のご理解とご協力によりまして、無事に作業を終えることができました。

次回コンクリート打設は中壁・側壁部11月29日、側壁部12月1日、頂版部12月15日を予定しています。

中壁側壁コンクリート
(11/29予定) 頂版コンクリート
(12/15予定)



側壁コンクリート
(12/1予定) 底版コンクリート
(9/21完了)



◀QRコードをスマートフォンのカメラを使って読み込んでいただくと、「底版部のコンクリート打設状況」の一部を動画で確認できます！

下流工区 J R 交差部 進捗状況

J R 交差部（旧原踏切）では、列車を通したまま線路下に函体を設置する工事を実施中です。当現場は、列車や線路への影響を抑えながら工事を実施する必要があるため、線路下の工事を、安全、低コスト、速い施工、そして高い精度の施工を可能とする『HEP & JES工法』という特殊な工法により函体工事を行う予定です。

現在、来年1月から当工法による工事着手に向け、線路南北方向の地盤を掘り下げる立坑（たてこう）掘削作業を進めています。



J R 交差部南側ヤード内作業状況（上流を望む）

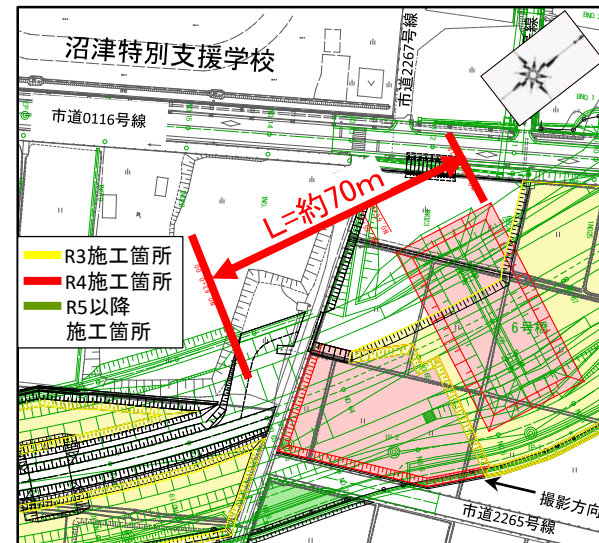
上流工区 盛土工 進捗状況

国道1号から高橋川までの上流工区1.4kmでは、令和2年度より堤防となる盛土工事を進めており、現在約70mの盛土施工を行っています。

上流工区は、皆様もご存じのとおり、非常に軟弱な地盤であるため、盛土により周辺地盤への変状を極力発生させないよう慎重に盛土工事を進めています。

盛土工事による地盤沈下観測では、高さ2mの盛土実施箇所において、施工から1年間で、約80cmもの沈下が生じる結果が得られましたが、盛土箇所の外側（民地側）では地盤の変状はほぼ見られない結果になりました。

今後も、施工後の地盤沈下や変状を観測しながら、計画的に堤防整備を進めてまいります。



令和4年度盛土施工箇所